

自分だけは正しい! という心が**慢心**を生む。
事故を未然に防ぎ、万人に**愛**される運転術とは?

クルマの 運転マナー

Manner

を考える

クルマの運転ならずとも、譲り合いや助け合いは日本人が昔から持っていた美德のはず。だけど昨今の交通事情を見るかぎり、そうした美しい慣習はどこへやら。わがまま放題のドライバーや、自己チューなドライバーのなんと多いことか…。そこで、あらためて考えてみたいのがクルマの運転マナー。誰もが気持ちよく走れる道路環境は、個々のドライバーのマナーと心がけ次第ではないだろうか。



- 踏切での一時停止無視
- 交差点で曲がる直前までウィンカーを点けない
- 信号のない交差点での一時停止無視
- 右折時に対向車より先に内回りで曲がる
- 夜の繁華街での二重駐車
- 車線変更時のノーウィンカー
- 車間距離をぎちぎちに詰める

▲悪名高きローカルルールの一例。どれも地元ドライバーには「常識」でも、道交法的には違反そのもの。「みんなやっているから自分も」なんて言い訳は通用しない!

てみよう、というのが今回の主旨。さらに、この数年問題化している自転車の運転マナーについても、あらためて考えてみたい。

日 本は法治国家であり、クルマで公道を走るときは道路交通法が適用される。クルマも二輪車も歩行者さえも、全国統一のルールのもと道路を利用してはいるわけだ。だが現実には、特定の地域でのみまかり通るおかしな決まりごとがある。これを「ローカルルール」と呼ぶ。ローカルルールといえば、かつてはひどかった。俗にいう香川ルールや名古屋ルール、広島ルールなど、地域名を付

されたローカルルールの大半は道交法違反で、よその地域からやってきたドライバーを戸惑わせたり、喧嘩や事故などのトラブルになることも多い。さすがに警察が取り締まりを強化したり、正しい運転の啓蒙に努めることで改善されつつはあるが、根強く残っているものもあり完全に掃蕩とまではいかない。一方、法律などの成文化したルールとまではいかずとも、社会一般の常識やドライバー間の暗黙の了解として広く認知されている行動が運転マナー。たとえばすれ違いで対向車を道を譲られたら会釈や挨拶をしたり、道路の合流は1台おきに順番で行うなど。法律で決められたわけではないが、社会人の良識として身につけておきたい運転マナーはたくさんあるし、逆に見習いたくない悪いマナーもある。良きにつけ悪しきにつけ、そうしたマナー全般を見直し

道交法無視のローカルルールは恥と思え!

Think
Manner

まずマナーと
ルールの違い
から考えよう

たルールとまではいかずとも、社会一般の常識やドライバー間の暗黙の了解として広く認知されている行動が運転マナー。たとえばすれ違いで対向車を道を譲られたら会釈や挨拶をしたり、道路の合流は1台おきに順番で行うなど。法律で決められたわけではないが、社会人の良識として身につけておきたい運転マナーはたくさんあるし、逆に見習いたくない悪いマナーもある。良きにつけ悪しきにつけ、そうしたマナー全般を見直し